



教育分野との連携による バリアフリー情報の整備・更新に向けた取組

令和元年12月

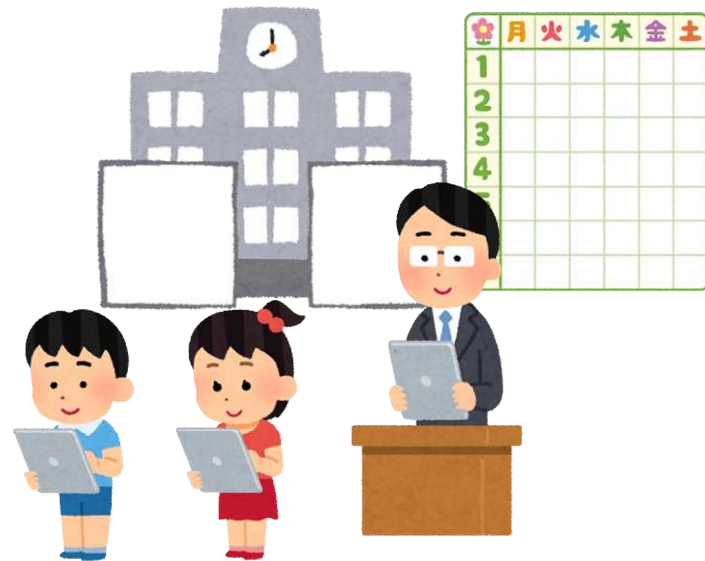
政策統括官付



- 継続的なデータの収集に向けて、教育分野との連携を検討
- **小学生を対象**として親子参加型のバリアフリー情報を収集するイベントを実施し、**イベントの教育的効果と今後の取り組みの可能性を検証**した。

学校教育での継続モデル（想定）

バリアフリー情報の収集・更新を 授業で継続的に実施するモデル



- 総合的な学習（心のバリアフリー教育）や情報教育の時間等に学区内のバリアフリー情報収集を実施
- 小学校のカリキュラムとして組み入れることで、毎年の学区内のバリア情報の更新が可能

今年度実施内容

① 教育分野との連携実証 （親子参加型情報収集イベント）



バリアフリーについて理解できた

子供達のためになるので、このような取組を続けてほしい

② 自治体ヒアリング



教育的効果もあるし、継続したい。その課題はXXX

イベント実施内容の
教育的効果

取り組み内容の
継続可能性

- 千葉、福岡、浜松の3市で、小学生を対象とした親子参加型のバリアフリー情報収集イベントを実施
- 計3回で親子9組20名、教育関係者2名が参加し、心のバリアフリーやICTに関する講話や車いす当事者との街歩きをしながらバリアフリー情報収集体験などを行った。

		千葉市	福岡市	浜松市
日時		10月19日（土）	10月26日（土）	10月5日（土）
場所		海浜幕張駅～ 幕張メッセ周辺	博多駅～祇園駅周辺	浜松城公園周辺
参加者		親子：2組4名 教育関係者：1名 中学・高校生等：4名	親子：4組10名 教育関係者：1名 市職員・大学生等：3名	親子：3組6名 市職員等：5名
プログラム 内容	心のバリアフリー講話		○	○
	ICTに関する講話		○	○
	バリアフリー情報投稿		○	○
	ネットワークデータ投稿		○	—
利用アプリ		測ってMaPiece		WheeLog!

イベント時の状況



心のバリアフリーに関する講話



情報収集（データの入力）



車椅子体験



振り返り

収集されたバリアフリー情報



実証前の地図
(千葉実証エリア)



実証後の地図
(千葉実証エリア)

段差や勾配等の情報が
入力された歩道データ

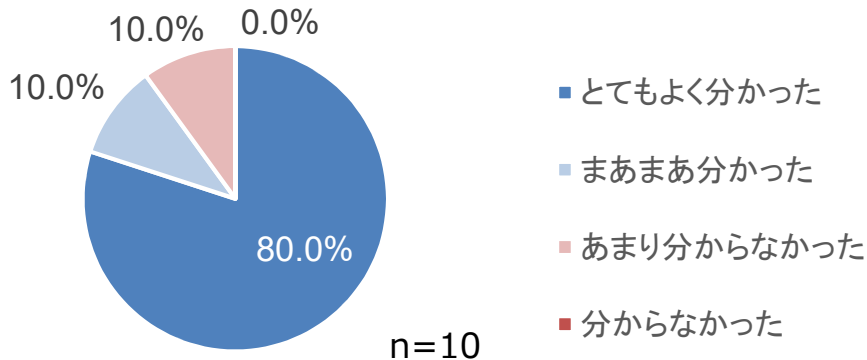


○ バリアフリー情報収集プログラムでは、**小学生でもアプリの使い方を理解して、自分で投稿を体験することができた。**心のバリアフリーやICTが社会で役に立つこと等への理解度も高く、バリアフリー情報収集プログラムが、**心のバリアフリー教育、ICT教育に効果があることを確認できた。**

教育効果（内容の理解度）

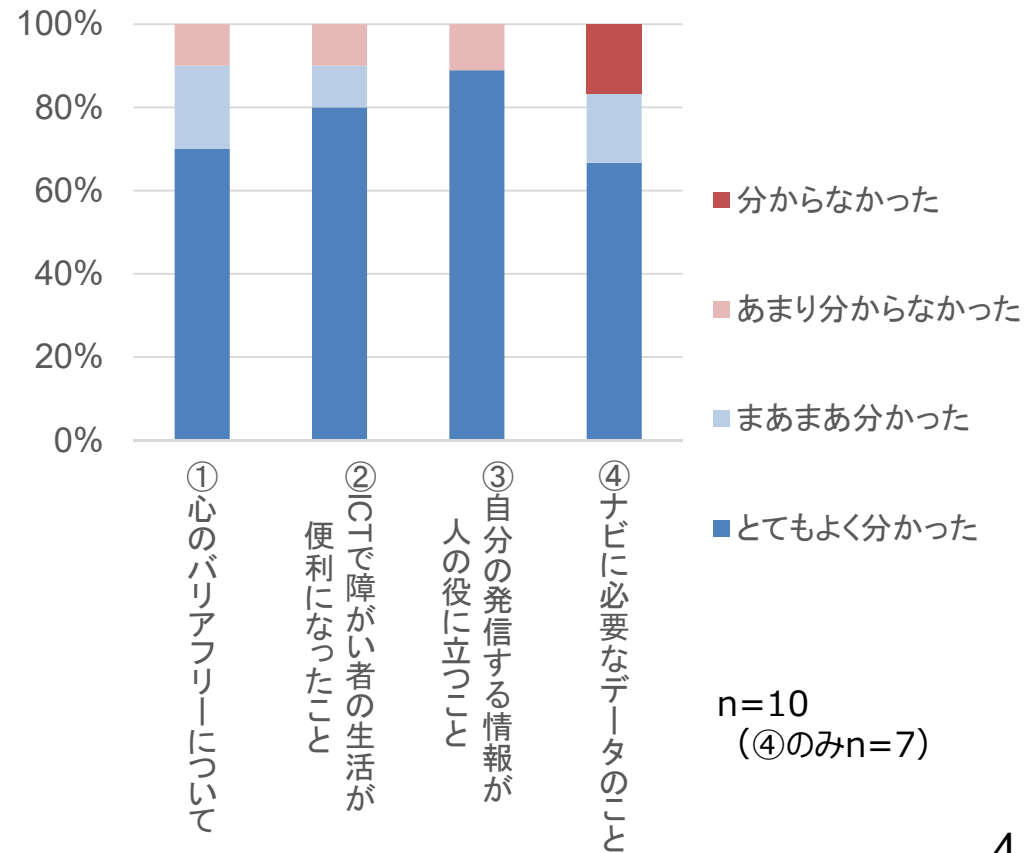
【小学生】

Q. アプリの使い方を理解することができましたか。



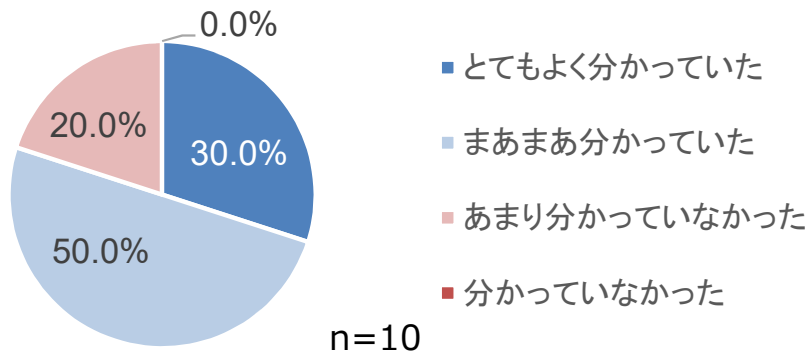
【小学生】

Q. イベントを通じて、次の内容を理解できましたか。



【保護者】

Q. お子さんはアプリの使い方を理解できていましたか。



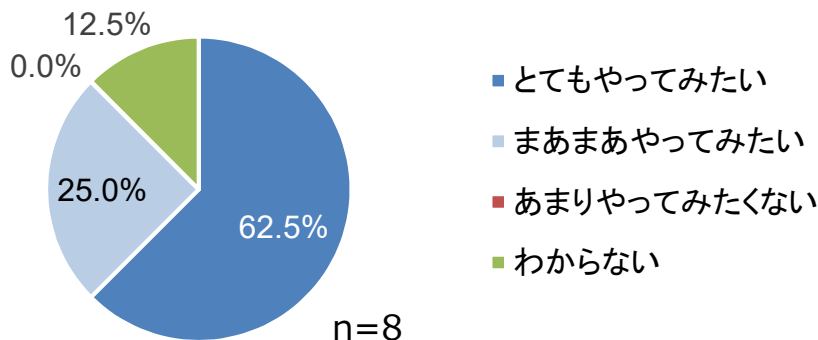


○ 小学生・保護者ともにバリアフリー情報収集プログラムを**授業でも実施してほしいという意向は高い**。また、参加した小学生からは、「参加してみたら楽しかった」「困っている車いすの人に声をかけようと思った」等の意見があった。

授業での取り入れ意向

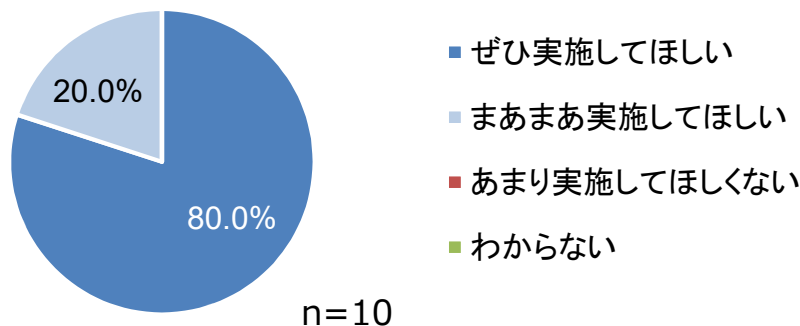
【小学生】

Q. 今日と同じようなバリアフリーに関する内容を学校の授業でもやってみたいですか。



【保護者】

Q. バリアフリー情報を収集する内容をお子さんの学校の授業で実施してほしいと思いますか。



参加した感想

【小学生】

車椅子の人たちは、凸凹の道だと通りにくい。ホテルでもカーペットがふかふかだとタイヤがはまってしまう。そういう人を見かけたら積極的に声をかけて車椅子を押しあげたい。

親に言われて参加したが、とても楽しかった。

車椅子に乗っていると不便なところがたくさんあることに気がつくことができた。街で車椅子の人を見かけたら、通りやすい道をあけてあげたい。

※ イベント内におけるバリアフリー情報収集中や、振り返り発表時の発言より抜粋



- 今後、実証実験の結果を踏まえて、**各教育委員会へヒアリングを実施**
- ヒアリングを通じて、学校の授業内外の**教育活動でのバリアフリー情報収集プログラムの実施・継続の可能性**やそのための**課題を検討**

教育委員会へのヒアリング項目

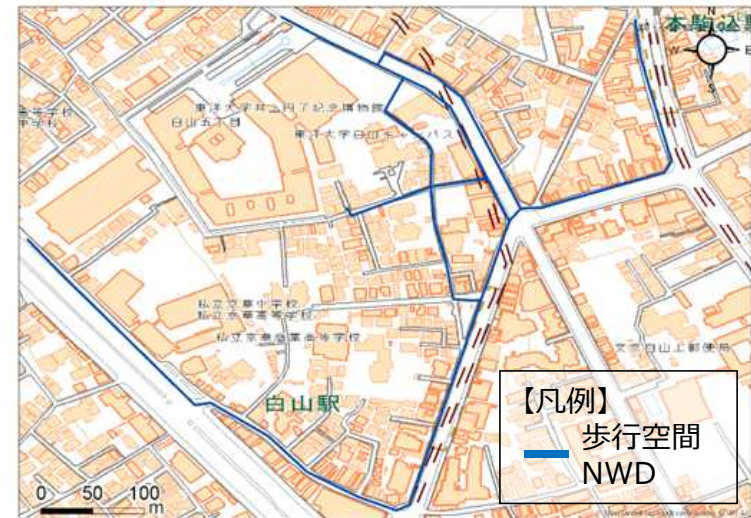
ヒアリングの観点	ヒアリング項目
バリアフリー情報収集プログラムの学校の授業での実施・継続可能性	学校の授業での実施・継続の可能性 (実施・継続が可能な場合、どのようにカリキュラムに組み込むか)
	授業で実施する場合のプログラム内容
	授業実施までの具体的な課題 (調整先・スケジュール・費用など)
	授業で収集したデータのオープンデータ化に向けた課題
	関連する取り組み (通学路点検など) との連携の可能性
バリアフリー情報収集プログラムの学校授業以外の教育活動での実施・継続可能性	学内活動 (部活動・委員会など) での実施・継続可能性
	学内活動で収集したデータのオープンデータ化に向けた課題
	学外イベント (自治体実施イベントなど) での実施・継続可能性
	学外イベントで収集したデータのオープンデータ化に向けた課題

- 東洋大 古屋委員の協力を得て、**大学生の授業のカリキュラムの1つとして歩行空間ネットワークデータの整備等を実施**
- **学生のバリアフリーの取組への理解の向上や心のバリアフリー教育**となり、大学の授業として実施することの有効性を確認。今後、参加した学生等の意識の変化等を確認し、**次年度以降にカリキュラムとして実施するかを検討**

実施概要

参加者 : 東洋大学国際観光学部3年生 (5名)

実施内容 : 大学周辺における歩行空間ネットワークデータの整備 (歩行空間ネットワークデータ整備ツールを使用)



東洋大学にて実施した講習会の様子 (屋外)

東洋大学にて整備予定の歩行空間ネットワークデータ



- 実証事業を実施している長崎市において、地域が主体となり継続的に歩行空間ネットワークデータの整備・更新を行うことができるかの検討を兼ね実施
- 講義内で整備・更新のための講習会を行った後、**学生が主体で電停と主要な観光地を結ぶ歩行空間ネットワークデータを合計6.4km整備** (2019年12月2日時点)

実施概要

参加者 : 長崎県立大学国際社会学部 2年生 (5名)・3年生 (7名)

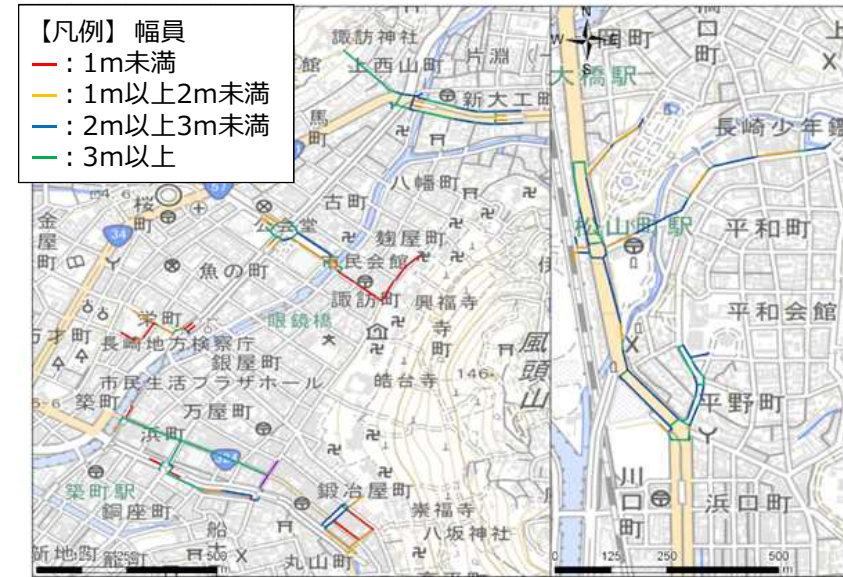
実施内容 : 長崎電気軌道の電停～観光地間における歩行空間ネットワークデータの整備 (歩行空間ネットワークデータ整備ツールを使用)



長崎県立大学にて実施した講習会の様子



長崎県立大学にて実施した調査の様子



学生が整備した歩行空間ネットワークデータの例